

国労東京の仲間よ！共に闘おう

当局「動労本部革マル」一体となった 動労千葉・国労破壊攻撃を許すな

線見阻止闘争は、本日で五日目に突入した。連日、ますます意気の上がる動労千葉組合員・国労千葉地本の仲間の闘いに、当局は息もたえだえた。当然だ。国労東京の仲間よ。労働者から仕事を奪い、首切り要員を生み出すこの業務移管攻撃を許せるのか。公安や白腕章に守られて仕事をさせられ、日々労働者の誇りを魂を奪われる事にガマンできるのか。「61・3」―業務移管は、「61・11」―全面的基地統廃合―十万人首切りの突破口だ。当局は、仲間の決起をこそ恐れているのだ。今こそ起って闘おう。

線見阻止闘争は、
日々当局を追いつめている

われわれは、当局を追いつめている。連日、白腕や公安官の数を増やしているものの、逆にホーム上でのわれわれの乗客への訴えにより、業務移管の非合理性やそのための線見が一度も千葉の線路を運転したことがない乗務員によって強行されていることを暴き出され、何よりも「赤字」だ「人員削減だ」として労働者の首切りを強行せんとしている当局が、連日数百人もかり出しているという矛盾・データメさが暴露されてしまい、ますます消耗してしまっている。

二月六日には、本社職員局労働課総括の荻野某が直々に空気入れと闘争破壊に乗り出してきたものの、われわれの気迫の前に圧倒され、「痛い目に合わないよう気をつけろ」「バカ（ママ）」とヤクザまがいの捨てゼリフしかはけず、一層ヒンシュクをかうありさまであった。

千葉と東京の闘いの結合を
当局は恐れている

当局が最も恐れているのは、動労千葉や国労千葉の仲間の闘いが、東京に波及することだ。だからこそ、必死で千葉の闘いをおしつぶそうとしている。

そして、東京の仲間（動労「本部」革マルは別だ。）を当局の手で厚く防衛することで、労働者の誇りをへしおろうとしているのだ。何んたる卑劣！

「61・3」での業務移管を認めたら、「61・11」での全面的基地統廃合―東京の二五電車基地の統廃合が一気に強行される。基地統廃合とは、東京三局内の業務移管攻撃だ。「61・3」の業務移管を許して、どうしてこれを闘えるのか。今闘えば必ず勝てる。

闘って勝利する道を進もう

国労東京の仲間よ、今こそ闘おう。今回の業務移管攻撃は、そもそも動労千葉と国労を破壊するため、当局と動労「本部」革マルが結託してかけてきたものだ。

「労使共同宣言」の動労革マルに屈することができぬのか。動労千葉は、いかなる弾圧があろうとも、この一カ月、当局が強行するならば、三月三日以降も業務移管阻止の闘いに決起する。当局や動労革マルに屈し、首を切られてたまるか。線見阻止闘争―強力順法、そして、第二波ストライキをかけ必ず阻止する。

今こそ闘いに起とう。闘って、十万人首切りを阻止しよう。